

D/P

[Dispatch Place]

close-up

街食でいこう。

Vol.2
2001・4

D/P

[Dispatch Place]

2001.4 vol.2

発行 広島市立大学マスコミ研究会

CONTENTS

02 **close-up!!** 街食で行こう。

- 06 心に響くリアルクローズ、新世紀 COS
- 10 インド「生を感じる空間」
- 11 【音楽的生活 - SuperSonic - 】
- 12 **INTERVIEW** : 謎の坊主集団skin's現る!!!!
- 13 ダイエット
- 14 **daily thinking tiny thing** [ヒビオモウチイサナコト]
- 15 韓国旅日記
- 16 **NAN**のコラム
- 17 編集後記
- 18 **Special Thanks**

cover model : Rica Fukuoka
Yositugu Nagahama



(有)バイクス堀川

営業時間
午前10:30
から
午後8:30
定休日
火曜日

優しいお兄さんが
待ってます!



広島市安佐南区高取北 1-8-34-2
(安古市店横)

TEL (082) **878-8180**
Eメール kenbikes@mb.infowb.ne.jp

音楽的生活



コンニチワ。みなさん音楽のある生活送ってますか？私はどうやら音楽ナシでは生きていけそうにありません。ある日、そんな私がインディーズのHPを見ていた所、SuperSonic というバンドの音源に出会いました。私は彼らの音を聴き、そして即「これこれ！こりや大変、会いに行かなきゃ！」と思ったのでした☆☆

SuperSonic とは・岡山を拠点としライブハウスでこれでもかとカッコイイ音を放ちまくるバンドです。メンバーは、Vo. Gu. 正木、Key, Cho, Gt. 木村、Ba. 宍戸、Dr. 応竹の4人。2000年8月には自主制作CD「Deepness I can go.」がリリースされています。HPは<http://www.music.ne.jp/~sonicak/>★★

INTERVIEW

— 結成に至るまでのいきさつは —

正木「浪人時代に Oasis を聴いてて、かつこええなあ自分も大学入ったらバンド組もう思うてて、大学入ってから SuperSonic っていう名前で Oasis のコピーバンドやってました。そんな時、友達に録音機材をもらったんです。で、それをきっかけにコピーじゃなくて、自分の曲をやるバンドにしたいと思うてメンバー募集したら、ニルバーナのコピーやってた Ba. の宍戸君と知り合っ一緒にやることになったんです。最初3ピースでやってて」木村「途中ドラムが抜けて今の応竹に変わったしなあ」正木「後、キーボードともう一本ギター欲しいなあ思うて所にも木村が入ったんです、別にドラマティックな出会いや無いですよ(笑)」

— 影響を受けた音楽は —

正木「そうやねえ、まあ Oasis でしょ、後は RADIOHEAD、my bloody valentine、このへんがパーツと出だした頃に丁度バンドしてて、後 PRIMALSCREAM、それと同時に日本の、くるりとかスパーカーとか」宍戸「まあ、ニルバーナ、他は今言ってたやつ。」私「応竹さんは？」応竹「・・・。」正木「彼トークできないんで(笑)」宍戸「まあ同じようなもので。」私「じゃあみんな聴いてた音楽かぶってたってこと？」正木「バンドや

り始めてからやねえ。」木村「一緒にやってたら聴くものも一緒になってくるみたいで。最初俺はパンクバンドやってたもん。RADIOHEAD とか聴き始めてからはやらんくなったけど。」正木「ま、よさそうなものやったらだいたい聴いてますけどね。私「ジャンルとかこだわりは無いんですか？」正木「別に無い、HIPHOP とかも聴くしね。ただ、こういう手元にある楽器で音楽やるんやったらこれが一番手取り早いからこういう形式で・・・っていう」

— 今後の活動について —

正木「今、次の音源作ってるんですよ。また6曲入りなんですけど。これを夏までに出来上がるように頑張る。5月17日に岡山 PEPPERLAND でライブ、後5月27日に大阪でもやります。2月に東京でやったんですけど、やっぱ他の県でもやっていきたいっていうのがあるんで。」木村「7月までになんとか新しい音持って行きたいなあ」私「CDはこの前と一緒に岡山だけで販売？」正木「そうやねえ、なんせ自主制作で500円とかやからねえ。」木村「岡山だけタワレコにも置いてもらえるんです」正木「やっぱインディーズレーベルを通さんと全国にっていうのは無理やねえ。」木村「なかなかこの一線を越えられないという・・・。まあCDは直接メールとかで連絡もらえたらどうにかしますよ」

★★インタビューなど生まれてこのかたやったことの無い私。地図を頼りに岡山上陸。初めての地に戸惑い、相当挙動不審な行動を繰り返しながらライブハウスに到着。木村さんに迎え入れられ、彼らの音を生で聴きました。この時私は、岸田氏(くるり)の「音楽で泣けるのは素晴らしいことだ」という名言を全身で Full に感じる事となったのです。繊細で叙情的、そしてその中に強さや説得性を兼ね備えている。熱い、とにかく熱い。ライブ終了後、近くのファミレスにてインタビュー。東京のラジオ番組に出演した時、あまりにテンションが低くて取り直しをさせられたという彼ら。特に応竹さん(タケチヨンボ)は最後の最後にやっと話してくれたという・・・。ライブで泣かれ、インタビューで笑われと、こりや本当たまらん！SuperSonic にどこまでもついていくことを決心した私。 <文・マユ>



◎4人で写ってる写真：左から正木サン、木村サン、宍戸サン、応竹サン。 真上の写真：木村サン

ダイエット

今回、テーマが“食“ということなので、ダイエットについて考えてみたいと思います。
痩せる為には、“摂取カロリーを減らし”“消費カロリーをふやす”ことができればいいわけですね。

今回は、“摂取カロリーを減らす”と言う視点で見ていきたいと思います。

ただ、摂取カロリーを減らすといっても、食事回数を減らしては逆効果です。

食事回数を減らす習慣がつくと、身体は少量のカロリーでも活動できるようになってしまい、元の食生活に戻すととたんに体重が戻ってしまう、いわゆるリバウンドが起こってしまいます。

では、食事回数を減らさずどうやって摂取カロリーを抑えるかですが、カロリー表を作ってみました。

ごはん	1 5 0 (kcal)	これを見ると、ラーメン、そば、うどん等の麺類のカロリーが低い事が分かります。 昼食にはこれらの軽いものにするのもいいでしょう。 ハンバーグ、炒飯、カツ丼等、肉や油を使う料理は全体的にカロリーが高いようです。 特に、炒飯やハンバーグは、それ単品だけで食べる事は少ない（ご飯やおかずがつくことが多い）ので、すぐカロリーオーバーになってしまいます。 飲み物では、牛乳や表には無いですがジュース類は、1 0 0 g で 3 0 ～ 6 0 kcal ほどあります。 栄養のために牛乳を飲むにしても、1 日 2 0 0 c c 程度に抑えたほうがいいでしょう。
アンパン	3 9 0	
ハンバーガー	3 4 0	
マカロニグラタン	5 8 0	
スパゲッティ・ミート	7 9 0	
ハンバーグ	5 9 0	
カレーライス	6 1 0	
醤油ラーメン	4 0 0	
炒飯	6 5 0	
カツ丼	9 8 0	
親子丼	5 4 0	
きつねうどん	3 6 0	
ざるそば	3 5 0	
牛乳（1 0 0 g）	6 0	
お茶	0	

一日のエネルギー所要量は、平均的な 2 0 歳の男性が 2 3 0 0 kcal、女性が 1 8 0 0 kcal 程度とされています。カロリーに気を使いつつ、間食をしなければ、割と楽にこの値を下回る事ができると思います。（たとえば、朝食に食パン＋目玉焼き。昼食に、ざるそば、夕食にカレーライスとすると、1 4 0 0 kcal 程度）

最後に、ダイエットを成功させるには、まず無理をしないことが大切です。

自分のペースで続けていく事が、痩せることへの一番の近道だと思います。

韓国旅日記

たまにふらっとどこかに行きたくなる私。でも旅をするにあたって一番の問題はやっぱり「お金」。そんな私が春休みに行ってきたのが韓国は釜山、友人と二人フェリーを利用し4泊5日の旅に出たのです。でも今回の旅は計画なんてまるでナシ！とりあえずフェリーの往復チケットだけは予約し、あとは行き当たりばったり、使える言葉はカムサハムニダのみ！いったいどんな旅になるものやら……。

下関から出港し、翌朝釜山に到着。とりあえずはその日の宿を探すことに。ガイドブックを見ると、どうやら韓国にはオンドルと呼ばれる床暖房があるらしい。せっかく韓国に来たんだし！とオンドル部屋があり、しかも水道からは温泉水が出るという温泉場にあるホテルを探すことに。読めないハングルの形を頭にしたきこみ必死で同じ形のハングルを探し回る。でも、いったい自分が今地図上のどこにいるのかすらわからない、このまま歩き回ったところで迷うだけなんじゃ……、そんな話をしながら看板を見ていると、友人があの看板！その方向を見ると確かにここっぽい、ていうか間違いない！なーんだ、目の前にあったんじゃん！

ジェスチャーと筆談で何とか交渉し、いざオンドル部屋へ！ドアを開けて部屋へ入ると2人の間に変な沈黙が……、なーんかエロイ！私たちが見た光景、それは花柄の床の上に敷かれた一枚の布団と二つの枕。さらに、かけ布団は妖しく輝くピンクのサテン生地。えっほもしかしてラブホ……？んなことはない！だってシングルの部屋もあったもん！ツインの部屋のあったもん！まさか違うっしょ……そんな話をしながらちよつと休むことに。ちなみに私

たちがホテルに入ったのって昼の2時くらい。このまま1日ホテルで過ごすなんて来た意味くない？、ってことで、夕方ようやく韓国らしいことをしに出かけたのです。

せっかく韓国に来たんだしと、焼肉を食べたその帰り。ホテルへ戻ろうと歩いていると、屋台で何かを焼いているおばちゃんを発見。何だろうと見てみると、どうやらパジョン（日本でいうお好み焼き）っぽい。私たちふたりは、あれだけ焼肉を食べたにも関わらず頼んでみることに。

でも、なぜかおばちゃんは食パンを焼きます。さらにはパンにバターをぬったり塩コショウしたりケチャップをかけたり……、



いったい何を作る気なんだ？不安な面持ちで待つ私たち。パジョンらしきものはどうなるの？と思っていると、最後にパンに

はさんで出来上がり。いったいどんな味がするんだろう……。そんな思いで口にとると……、これね、めっちゃめっちゃうまい！！初めての味で言葉ではなにも説明できないけれど、本当にただただうまい！二人であまりのおいしさに感動しまくり！これねえ、本当にみんなに食べてもらいたい。絶対感動するはず。次韓国に行っても必ず探し出して食べると誓ったのです。

さて、その翌日。私たちは「岩ウオッチング」へ。場所は釜山の南西、「海金剛（ヘクムガン）」。ここでは海に切り立った奇岩を見ることができ、高さはほぼ一山ほど！ちよつとおおげさかな？そしてその岩の断層がきれいなグラデーションで、みとれてしまうくらい。私たちは巨済島から出ている遊覧船を利用したのですが、ここに至るまでが大変だった！

何しろ時間も便数も、そしてどこで乗ることができのかもまったく調べずに行った私たち。その場その場でいろんな人に聞きながらとりあえずは巨済島へ。ところが、そこでまた問題が……。なんとどこから遊覧船が出ているのかわからない！着いたターミナルのチケット売り場で聞いてみるが、うまく伝えられない。カウンターの人が英語を話せる人に電話をつないでくれたのだが、その時すでに出港まで20分足らず。英語といっても場所の名前などはもちろん韓国語なのでゆっくり話してもらわないと理解できない。何度も聞き返しながら、ようやくここからまだ200mほどあるかないといけなないとわかった。

しかしすでにあと5分もない。本当に間にうのか？そう思いながらひたすらそれらしき場所を探し歩く。途中、駐車場を通っていると、何も聞いていないのにおじさんが「まだあつちだ！」と指差す。何でわかるんだ？と思いつながら進むとやつとそ

れらしきところへ。チケットのチェックを済ませ、何とか遊覧船に乗ることができた。そういえば、約3時間の岩ウオッチングで感動のあまり写真を取りまくった私。できあがった写真の半数以上は岩でした。

その翌日、私たちは帰国の途についた。韓国の旅で感じたこと、それは食べ物のおいしさ、海金剛の景色の壮大さ。でもそれ以上に感動したのは人々の親切さ。まったく韓国語の理解できないわたしたちが何を言おうとしているのか一生懸命聞いてくれる。困っていると、側にいる人が助けくれる。どんなにコミュニケーションがうまくとれないときでも、何とかしてこちらの希望をかなえようとしてくれる。今回の韓国旅行は、そんな韓国の人々の優しさにふれることのできた旅なのでした。

☆きょうこ☆

NANのフィルム

テーマ「耐える」

VOL. 2

今年の一月八日、全国各地で今世紀最初の成人式が行われました。二十歳になった私は、広島市の成人式に独りで参加したのですが、あまりにも心細かったので、まあ、来年あたりは友達と一緒にいきたいですね。

―何度も行くな！

さて、この成人式でも、最近の「荒れる若者」の姿を露呈する結果になってしまい、同年代の私にとって大変残念です。特にその「荒れる若者」の姿が顕著に表れたのが、高松市の成人式。市長が壇上で祝辞を述べている時に、二階席に座っていた新成人が、市長に向かって、「帰れ、帰れ。」と、野次った光景は、皆さんも御存知かと思います。私は、市長に向かって、いくらなんでも「帰れ、帰れ。」はないと思います。どうして、「帰ってください。」と敬語が使えなかったのでしょうか。

―ちよっと待てよ。言葉遣いの問題じゃないだろう！

他の会場でも、酒盛りや乱闘騒ぎがあり、成人式の是非が問題になりました。成人式の有り方について議論する事は結構なのですが、私は、多くの新成人の「成人式は、つまらないからやめた方がいい。」という意見だけでは納得がいきません。この世から、つまらない事を全て排除していくと、どうなるでしょう？ そんな事をする、世の中めちゃくちゃになってしまふ。

本来、物事は表と裏、明と暗、真と偽といった二面性を持っているわけなんです。その片方だけを排除しようだなんて、無理なんです。たとえ、つまらない事を全て排除できたとしても、今まで、少し面白いと思っていた事がつまらなくなるだけの事なんです。それに人が生きていく上で、つまらない事も経験していく事が大事なのではないのでしょうか。面白くない事があっても、ぐっと我慢する事も大切だと思います。

最近のいじめ問題を見ても、いじめる側の根底には、「学校が楽しくないから。」という事があると思います。楽しくない事が耐えられないんですね。で、いじめられた側は「キレる」わ

けなんです。私は、別に「キレる」事自体は全然問題ないと思うんです。ただ、キレ方が良くないですね。だって、ナイフとかバットとかを振り回すじゃないですか。これには、明らかに疑問を抱きます。というのも、ナイフで刺したりバットで殴ったりしたら、そこで「はい、終わり。」なんです。相手の命も自分の人生も。だから、私は、「キレる」にしても、素手で殴るべきだと思うんです。現代は、インターネットやテレビゲームといったバーチャルなワールドがメニーですから、

―お前は長嶋か！

いじめられて「キレる」方は、すぐに凶器に頼ってしまう傾向にあるのだと思います。でも、非現実的な手段を用いてまで、いじめた相手を攻撃する事はないですね。いじめた相手が明らかに悪いんですから、バットやナイフで彼らを殺傷してまで、自分だけ正義のヒーローみたいな気分になるのはちよっと違うんじゃないかなと、そう思います。だから、「キレる」時は、ちよっとだけ我慢して、素手で殴った方が絶対にいいですよ。どうしても我慢できない、という人は料理人が野球選手を目指せばいいですから。

―ただ、ナイフやバットを使うってだけだろ！

幼児虐待も最近問題になっています。親が育児を嫌になって、日頃のストレスが虐待という形になって現れているのでしょうか。親は不満や鬱憤を、何の罪もない子供に向けているのです。

結局、いじめにしても幼児虐待にしても、加害者が楽しくない、嫌な事を我慢できずに、被害者にぶつけるから起きるんです。楽しくない事や嫌な事があっても、ぐっと耐える事が必要だと思います。

成人式がつまらないから「帰れ」コールをする、成人式自体をやめようとする。学校が楽しくないから人をいじめる。育児が嫌になったから子供を虐待する。こういった現状を見てみると、残念でなりません。でもこう言う、読者の中には「それだったら、NANは何でも我慢できるのか。」とおっしゃる人がいると思います。しかし、よく考えていただきたい。

人は何のために生きているのか。私は夢や、希望を叶えるためだと思っています。人生とは自分の夢や、希望を叶えるために挑戦していくことです。人は夢や、希望を持って生きているからこそ、多少の苦しみを我慢できるのではないのでしょうか。

人生は険しい山道だと思います。私達は、その山の頂上に向

かって日々歩いている。生きていて、苦しいと感じる時があったとしたら、それはきつと「上り坂」なんです。上り坂は苦しいけど、確実に山頂、つまり目指すべき所に近づいているのです。しかし、私も含めて、人間は弱い。少しでも楽な方へ行こうとするし、なるべく楽しくない事は避けたい。つまり、嫌な事があった時、すぐに、つまらない事を排除しようとしたら、他人をいじめてみたり、子供を虐待したりする。しかし、そういう時は明らかに「下り坂」なんです。わかりますか？

―だから、辛い時があっても逃げようとせずに我慢して、決して山に登るのを諦めないで欲しいと思います。苦しくても、ぐっと歯を食いしばり、汗水垂らして山頂を目指す。その結果、つまずいたり、転んだり、時には、足をすりむくかもしれない。しかし、それでいいじゃないですか。

山頂まで登りつめた時、眼下に広がる景色を眺めたら、今まで疲れを忘れるくらいに気持ちいいでしょう。それと同じように、夢や希望を叶えた時、今までの人生を振り返ったら、どんなに素晴らしいでしょうか・・・。

以上、コラムでした。

今号の解説 「耐える」

人生は、耐える事の連続である。人生の99%が耐える事で、残りの1%の楽しい事のために、人は生きていと言っても過言ではないだろう。「ああ、ここで何もかも投げ出してしまいたい。」と思いつつも、皆、「ここで諦めたら、他の皆に迷惑がかかる。」「私がこんなところで終わってたまるか！」と思い、耐えるのである。耐えるという事は、他人を思いやる事であり、自分を見つめ直す事である事に他ならない。

もし、皆が耐える事をしなくなったら、世の中は滅んでしまうだろう。私達は「耐える」か「絶える」かの、どちらかなのである。

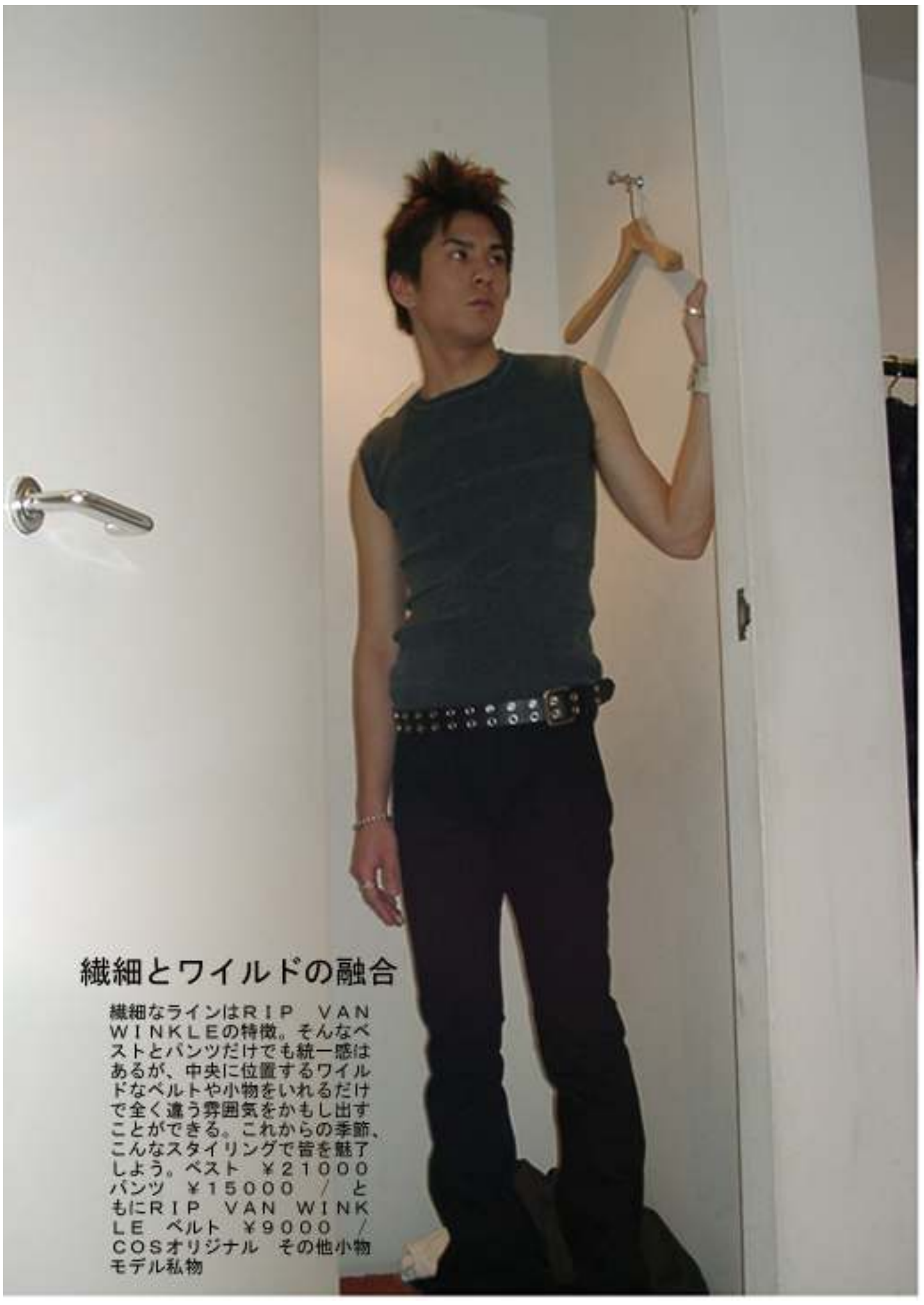
前回のコラムで、ドイツのドウィエとありましたが、正しくはフランスのドウィエです。お詫びして、訂正いたします。

ストリートでよく見かける7分丈
パンツも同色のジャケットとあわ
すだけでこんなに新鮮になる。さ
らに素足で履くローファーで個性
を前面に押し出した、光り輝くス
タイルリングが可能になる。明るめ
のTシャツをジャケットの下に重
ねて春らしさも忘れない。ジャケ
ット ¥34800 7分丈パン
ツ ¥16800 ローファー
¥29800 / すべてVIR
US インナー スタイリスト私
物

常に磨く独自のスタイル！

心に響くリアルクローズ、新世紀 COS

model: 7cm styling: nagaha photo: nagaha
special thanks: Rica, COS staff



繊細とワイルドの融合

繊細なラインはRIP VAN WINKLEの特徴。そんなベストとパンツだけでも統一感はあるが、中央に位置するワイルドなベルトや小物をいれるだけで全く違う雰囲気をかもし出すことができる。これからの季節、こんなスタイリングで皆を魅了しよう。ベスト ¥21000
パンツ ¥15000 / ともにRIP VAN WINKLE
ベルト ¥9000 / COSオリジナル その他小物
モデル私物

COSを知りたい！！

袋町の一隅に一際目を引かれるショップがある。それが今号で取材させていただいた『COS』である。今コレクションからアクセサリを始めた『RIP VAN WINKLE』をはじめ、『VIRUS』『n° 44』などが並んでいる。約20年前に呉で雑貨などを扱ったショップを立ち上げた現オーナーが『FAB』など次々にメンズ、レディースのショップを展開し、約3年前に広島に設立したのが『COS』である。それだけ歴史を重ねたオーナーが設立したショップだけあって、ショップは見事に洗練され、来る者は楽しくて仕方ない。最近ではイージーオーダーのオリジナルセットアップも扱っている。このショップにはストリート系、モード系等といったカテゴリーは存在しないので、読者のみなさんも1度足を運んでみたいかがでしようか。かなり満足できますよ。



[写真1] 店長の西森さん。『Tシャツ小物はこれから続々入ります。ここだけの話、実は秋、冬のコレクションからRIPのレディースが始まります。』との事。かなりレアな情報。皆さん忘れずに。[写真2] ウィンドウの側にあるテーブルでくつろぐことも可能。ちょっとしたカフェ状態。[写真3] 洋服を扱ったショップではかなり珍しいCDの視聴コーナー。VIRUSからでるアーティストのコラボCDも要チェック。

COS

中区袋町1-14Kビル1階

地図は巻末へ



これからの季節はカットソーで出かけよう。

〔写真左〕触り心地のいい物は当然着心地もよい。このカットソーはまさしくそんなかんじ。そで、すそに入った青いラインはナチュラル感があらわになる。¥15000〔写真右〕粗めに編まれたカットソー、ゆったりしたシルエットでリラックスできる。通気性もよいので、これ1枚で着こなそう。¥25000 / ともにRIP VAN WINKLE

〔注〕うへの写真はボケています。読者のみなさん、またモデルをしていただいた7cmには多大なご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。

ながは的最高 stylish 計画

さてさて始まっちゃいました、ナガハ的最高 stylish 計画のコーナー!!!!!! Vol. 1、2はどうでしたか? ナガハ的には洋服自体の量はかなり減ったけど雑誌的な完成度は前回よりもよくなったのではないかなと思ってるんだけど勘違いかなあ? えっ? なになに? かなりよくなった? だしょー、でしょー、だしょー。ハハアーン。やっぱり。でもさー、Vol. 1、1より悪くなったら『成長してねーなーこいつ!!』って感じだよなー。悪くなったら指摘してね。でも、雑誌って出来上がってみたいと良いか悪いかなんて実はよくわかんないんだよなー。だから今この原稿を書いている時点では全然わかんねーから良いものが出来上がるのを想定して書いてます。じゃないとやっとなんか。ところで余談ですがさっき使った『ハハアーン』はナガハの中でかなりの勢いでブレイクしてます。英語を話す方々がよく使うじゃん。そんな感じで使うのね。これ結構よいっすよ。かなり便利。まああまりばらしたくないんだけど協賛してもらったからだすけど、ナガハ『ジョリーバスタ五日市インター店』でバイトしてんのね。そこではかなりの勢いで使いまくってます。あっ、ジョリーバの名前を出してこのナガハのページでも宣伝したから店長今度¥1000くださいな。っつーかほんとどうでもいい事ばかり書いてるよねー。段落ぐらい代えなさいって感じなので代えるね。

さて、次回Vol. 1、3は『サイラス』を是非とも特集したいなー。まだ交渉してないからわかんないけど、できたら絶対やります。やばっ! スペースがない」。じゃーこのへんで。ナガハでした。まったねー。。。

インド『生を感じる空間』

第2回

Ricaが綴る旅エッセイ

アーグラー ■ ジャイプール

出会い編

うわあ、すごい。アーグラーに着いて感じたのは、まさにありきたりだがこのことば。舗装された道路を抜け、明らかに雰囲気の違いが街へやってきた。橋を渡る。なんと天気が良いことか。太陽の光で川面が輝く。しかし、ぼうと川を眺める余裕なんてなかった。橋を通過するものは車だけではない。バイクや人力車や牛……。右側通行も左側通行も車道も歩行車道ももあったもんじゃない。私の乗っている車のすぐそばには、人力車が通る。私の視線は一点に集中した。人力車を必死にこぐおじさんの真剣な目。額から流れる汗。一瞬時が止まったように、そのおじさんにくぎづけになってしまった。そうか、私が感じた「すごい」はきっと活気だ。パワーだ。アーグラで生きる人々、動物、そしてクラクションの音さえも私をゾクゾクさせる。「あれがタージマハルだよ」ドライバーのハシムがそう言った。「えっ？うそ！どれ、どれ？あの白いの？私たちは興奮した。橋の上から白い玉ねぎ型の建物が見える。以外に小さいなあ、私は思った。車からその白い建物を眺めていると、「It's a joke!」運転席から声がした。はあ？違うの？笑うハシム。全くイタズラ好きだ！「タージマハルは明日行くよ、タージの一番綺麗な時は朝日を浴びた時なんだ」夕日を浴びたタージマハルが見たいなあと思っていた私に、ハシムが力説する。まあ、いいか、インド人が朝日というのなら、ここはインドだ、従おう。

橋が終わり左折すると、狭い路地に入った。汚い。正直そう思った。ゴミはそこら中に散乱しているし、至る所で牛が座っている。デリーはやはり都会であったのだろうか。デリーとアーグラーの違いに少し戸惑う。IT日の社長ラジャは、今回の旅のプランを決める上で、アーグラーはインドの中でも非常に危険な場所だと言っていた。デリーと比べ、確かに治安がいいようには感じない。そんなことを思っているうちに、目的地に着いた。車を降りた瞬間、私の背後に人影を感じた。振り返ると、見るも無残なものぐいすの少年が立っていた。デリーでは全くといいほど、ものぐいすを目にしない。しかし、この少年の容顔は、まるで被爆したかのように皮膚が荒れ、目が真っ赤に血走っている。私は長時間目を合わせることができなかった、というよりむしろ、その少年から逃げようとして庭園へ入った。ショックだった。庭園に入っても私の心臓はドキドキし、



落ち着かなかった。また一つ、インドの日常に足を踏み入れた気がした。

その日の夜、私たち二人はハシムのおばさんの家へ行き、メヘンディをしてもらった。ヘンナという葉っぱをすり潰してできた染料で手に模様を書く。将来良き夫に巡り会える、というおまじないらしい。手のひら、手の甲、指先、爪、すべてにほど濃やかな模様を描いていく。真剣に私たちの手に細工してくれている姿に加え、一般のインド人の家におじゃますることができたのが嬉しかった。私たちは何度もありがとうを言い、おばさんの家を後にした。車の中で、ハシムは言う。「12時になるまで手を洗ったらだめだよ」そう、メヘンディをしてすぐ手を洗ってしまうと、手から模様が消えてしまう。私たちはホテルへ着き、ベッドにとびこんだ。手を洗うなど言われても、体は疲れている、早く寝たくてたまらない。ベッドの上に手を置くと染料が剥がれてしまうし……。でも眠いし……。ああ、手がつりそう。ベッドから手を宙ぶらりにする。隣を見る。……。寝て……。私の葛藤は何なのか、と思ってしまう。まあ、仕方ない。明日は、朝日を浴びたタージマハルを見るのだから。

車はアーグラーを出て、ジャイプールへ向かう。昨日はタージマハルでひどい目にあった。タージマハルの大きさにあっけにとられ、ぼけえとタージを眺めていた時のこと。いきなり数人のインド人の少年に取り囲まれ写真を撮られた。写真くらいいいか、と思っていたら、フラッシュが光った瞬間、首に手をまわされ、プチッとキスされた。はっ？何事？日本人だと思てなめてんのか？ふざけんな、である。しかし、そんなことがどうでもよくなるほど、タージは力強く、落ち着きはらって私たちを見下ろしていた。今日もとてつもなく天気がよく、青空が広がる。車はぐんぐん走る！……。はずだった。ガチャ、ガチャ、ガチャ。ハシムが必要以上に車のギアを動かす。んっ！？どうしたのだろう。急に車が止まった。私は助手席を降ろされ、ハシムが車を点検する。何度エンジンをかけても、車は動かない。一台の車がこっちへやって来た。カナダの旅行者を乗せた車であった。ハシムはその車に乗り、折り返し、自動車整備士を連れて帰ってくるという。ひょんなことから、私たち二人は、何もない道路の真ん中に置き去りにされた。アーグラーとジャイプールの、いつてしまえばどいなかっている。私たちは、ハシムの言い付け、「絶対車から降りるな」をきちんと守り、しっかりとロックし、すぐに帰ってくるだろうハシムを待った。

左を見れば民家が2、3件ある。人がすんでいるのかあと思って眺めていた。いつの間にか、車の周りには小学生から中学生くらいの男の子たちによってうめつくされていた。きっとこの村の子たちだろう。10人近くいる男の子たちの目は皆興味津々でこちらを見つめる。何だかわからないことばで話しかけてくる。全く理解不能なため



とりあえず、「ベチャクチャベチャクチャアウワウワウ」和方が少年たちに向かって叫ぶと、それがかなりうけたらしい。大爆笑の渦だ。「ちよっとちよっとお、何で笑ってるの？何がおかしいの？」私たち二人を囲んで、車の外では笑い、笑い、笑い。車を囲む人数が一人、また一人、増えていく。おばさんが私にナンを差し出す。ちよっと食べるのこわいなあと思いつつ、おばさんの目の威力に負け、一口食べる。それを見たおばさんは満面の笑顔。もっと食べろ、もっと食べろとジェスチャーする。隣の窓ではガイドブックを見せてくれと、おじいちゃんの手が伸びる。ふと後ろを見ると、一人のおばあちゃんが車のガラスにべちょーと顔を付け、こっちを見ている。ぎょええええええええ。存在に気付かされたのが嬉しかったのか、今度は窓の外から手を伸ばし、私の時計を取ろうとする。「ちよっと、待ってえ」「こらっ」村の皆がおばあちゃんを怒った。どうやら村の中でも問題はあさんらしい。……私たち二人は疲れきっていた。車の中に箱詰めされ、はや一時間。何がすぐ帰ってくるんだよ、ハシム。「あああああーハシムー」二人で叫んだ。

「うわあ、涼しい」車から降りた私たち二人は思いきり伸びをした。体力は消耗し、ぐったりだ。ハシムたちが車の修理をしている間、彼らの家のそばに座り込み、出発の時間を待った。おらしいなことに、さっきまでにぎやかだった彼らが、ビタリと静かになった。皆がじーっとこっちを見ている。数分前の元気さはどこへやら。皆ハシムに遠慮しているようだ。プオオオオオオオ。エンジンがかかった。よかつたあ、ジャイプールへ行ける。しかし、少し淋しい気もする。村の皆とはもっと触れあいたかった。まさか、何もない道の真ん中で、二人きりにされとは思っても見なかった。でも、これだから旅はおもしろい。何ごとともスラスラいく旅なんて、始めから望んでなんかない。車に乗り込み、彼らに手を振り、私たちはまた、延々と続く灼熱のアスファルトの道を走り出した。

D/P vol.3へ続く…

□«□@□«□@□«
[skin's]

□□□□V□□□W□C
skin's
□»□∅□I□I□I□I

skin's [skɪn] [s] [k] [ɪ] [n]

[oʊ] [g] [ə] [i] [k] [oʊ] [j] [tʃ] [æ] [tʃ] [eɪ] [tʃ] [eɪ] [tʃ]

[e][e][e][e]~·+#[æ]c[u]uuu,uuu,[]~wuuu`[æ]~"«Auuuæ]"X[L]uuuv
[e][e][e][e],[]"~+#[æ]c[u]uuu~"+#æuuu²"uuu []•[v
[e][e][e]uuuu+#[æ]c[u]uf[u]Cuuuu¹[C]uuuguuuuL[A][æ],uuu¹uuuX[L]uuuyuuu.
[] ~uuuuuf[u]uuu-[]'uuu~[]ç"«[æ]ç[v
[e][e][e],uuu+#[æ]c[u]\$]+#[æ]uuuwuuu~[]~[]·[¶]"uuu~[wuuu]"s[r]uuu~uuuu
[e][e][e]yuuu+#[æ]c[u]Ruuuuu[g]~[]~uuuu@~uuuv[]ç~[]"«uuu„[æ]...[v
[e][e][e]uu..."~+#[æ]c[u]~uuuuuuuo[r]~[æ]uuuuuu~[]v
[e][e][e]~·+#[æ]A[])i+#[æ]c[u]/X/L]uuuyuuuuuuuuL[æ]ç[v

skin's T-shirt L 20 B

"e""e""e"
F=""~ "P r i n t e d i n J a p a n
T-shirt ""Z""
090-4106-7487(TEL)g)
@T-shirt""Z"" @09041067487@jp-n.ne.jp

~ * i
~090-4106-7487(TEL)g)
@09041067487@jp-n.ne.jp

1111

DAILY THINKING TINY THING



* ヒビオモウチイサナコト *

フランス・イタリア旅行編

こっそりつぶやく心の内面を描く**DAILY THINKING TINY THING**は、毎号筆者の変わるリレー連載のページです。

パリのイヌ

私が4日間パリにいた間、一番たくさん見たものは何だろう？それはたぶんイヌだ。パリは本当にイヌが多く、イヌ好きにはたまらなく楽しい街なのである。

パリには様々な種類のイヌがいた。大きいイヌ、小さいイヌ、毛が長いイヌ、短いイヌ…。どのイヌも一様に毛並みがよく、時にはカワイイ洋服を着た小粋なイヌもいたりする。そしてものすごく躰が行き届いている。イヌ達は絶対吠えたり暴れたりしない。いつもご主人様の隣でおとなしくしている。だから、パリのイヌはどこへ行くにもご主人様と一緒に。メトロに乗るのも一緒だし、カフェでの一休みも一緒だし、街でのお買い物も一緒。これだけ躰が行き届いてたら”そりゃあどこでも連れて行けるわ”なんてイヌを飼っていた私は感心してしまう。

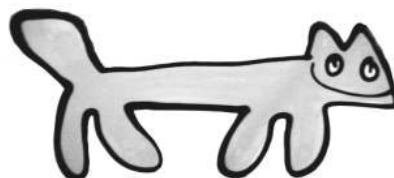
今は亡き私の愛犬は、散歩の時私を無視して好きなところに行こうとするし、仲の悪いイヌが通りかかったらいつも吠えていた。”きっと彼はパリではやっていけないだろうなあ”なんて彼のことを思い出し、パリの街で私は1人ちょっと切なくなった。



イタリアのスリ



イタリアにはスリが多いとはよく聞く話だ。左のように、スリ注意の看板さえある。ローマにいた4日間のうち、私は2度もスリにあうハメになった。

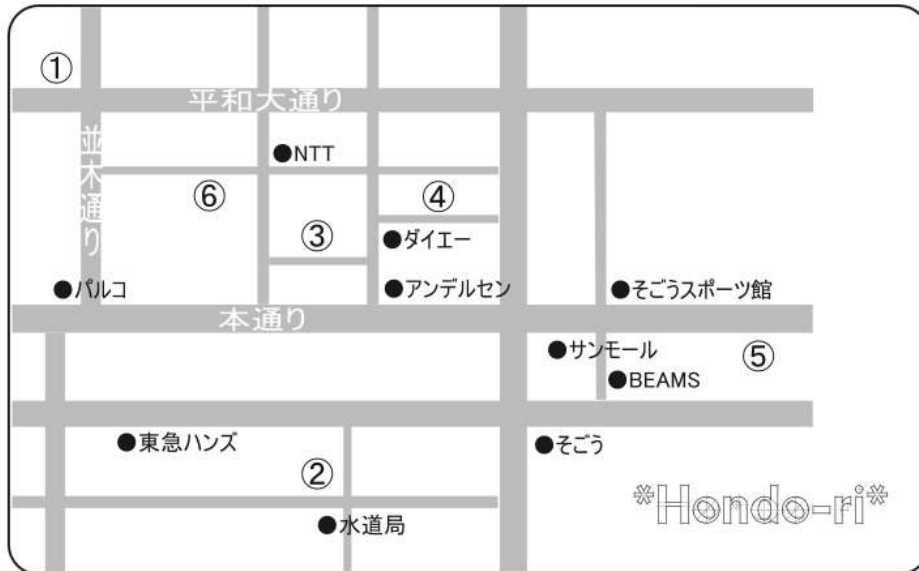


パリのラクガキ

最初は、写真を撮るのに夢中になっていたとき。鞆が動いたのにびっくりして勢いよく振り向くと、近付いていたスリの持っていた新聞をはたき落とすことになった。女2人、子供1人のスリ集団は苦笑い。2度目は地下鉄の中だった。駅に着いて降りようとしている私に、女の人たち3人が前をふさぐようにして立ったままのいてくれない。早く降りなきゃドアが閉まる、と焦りながら、鞆のチャックが開けられたのを感じた。私は身をひるがえして地下鉄から降りた。幸い、何も入っていないポケットだったため、被害はなかった。

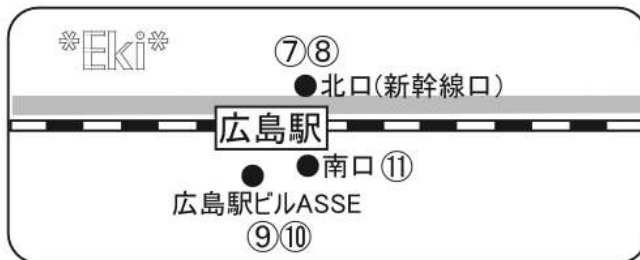
4人旅で、こうしてスリにあったのは私1人だった。何も盗られなかったとはいえ、恐いものだ。日本に帰っても、背後を人が通るたびにドキリとしていたのだった。

*special thanks & map***



- ① Jcafe...中区富士見町4-20 ☎242-1234
 ② パスタ アンジェリカ...中区基町13-13(B1階) ☎223-1919
 ③ ナムチェ・バザール...住所、連絡先は特集のページにあります。
 ④ Lotus-Eater...
 ⑤ FIGO...
 ⑥ COS...住所は「心に響くリアルクローズ、新世紀COS」のページにあります。
 ☎544-1678

- ① PM12:00~AM2:00
金・土~AM3:00
 ② 月~土11:00~15:00
17:30~21:00
日・祝 11:30~15:00
17:30~21:00



- ⑦ カレーステーション 印度倶楽部...広島駅新幹線北口2F
 ⑧ 紅葉(コウヨウ)...広島駅新幹線北口2F(ひかり茶屋前)
 ⑨ カフェダイニング ウィーン...ASSE地下
 ⑩ ロッテリア(アッセ広島駅店)...ASSE地下
 ⑪ カフェ サンピエーノ...広島駅南口(マクドナルド前)

Thank you for your cooperation. Readers, let's go to these shop! That's surely makes you happy!!

- ☎506-3771
 ☎263-1548
 ☎286-2388
 ☎506-2160
 ☎263-9731

Super Sonicのみなさん skin'sのみなさん 難波智治 松川朋生 (すべて順不同)

編集後記

思考錯誤だった創刊号…発行した後、改善点がたくさん見えてきました。それを少しでも生かしそうと、今回Vol. 2が出来上がったわけです。Vol. 1よりもスタッフが増え、内容的にもぐっと深みをましたのではないかと思います。前回からの発展といえ、たくさん取材に行ったことです。今回の経験をいかし、Vol. 3はより良いものになることでしょう。

さて、ここで創刊号で忘れていたことをイロイロ説明したいと思います。まず、「D/P」とは…Place of Dispatch、発信地という意味を持っています。この雑誌のコンセプトも含んでいるのです。私たちは、この雑誌を通して、自分たちを発信していきたいのです。自由に表現する場、それがD/Pです。紙面構成としては、はじめに特集と銘打ってスタッフ全員で協力・分担して作成するページ、そのあとに個人ページが続きます。

ということで、たくさんの人々に読んでもらいたくて、どんなささいなことでも感想などをもらえたら嬉しく思います。あなたの一言が、次の発行に向けてのやる気のもととなるのです。D/Pはまだ生まれたばかり。スタッフみんなが手探りしながら大きく育てていくのです。…とりあえず、完成してほんと良かった。

STAFF 募集



D/Pでは、制作スタッフを募集しています。興味をもってくれたそこのあなた。スタッフとして活動してみませんか？充実感は保証します。いろいろな経験ができますよ。連絡先は下の通りです。携帯に電話をするもよし、Eメールにて思いをしたためるのもよし。とりあえず一報待ってます。



090-9409-9045 (Rie Ito)

r-i1210@wj8.so-net.ne.jp



Coming soon!!



produced by Mass-communication research club

一品料理 炭火焼
よし亭

安佐南区沼田町伴6890-7

D/P

[Dispatch Place]

Staff

Rie Ito
Miho Uemura
Rica Fukuoka
Yoshitsugu Nagahama
Hiroe Yukimoto
Yui Imamura
Kyoko hayashida
Mayuko Matsuoka
Kan Nakamura
Noriyuki Masuda

2001 *E4*
Vol.2

Q O O P N S P U æ , S
, S ≠ F L S S W } X R ~ /